

A J-shaped association between serum uric acid levels and poor renal survival in female patients with IgA nephropathy

松隈, 祐太

<https://hdl.handle.net/2324/1931803>

出版情報 : Kyushu University, 2017, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



氏 名： 松隈 祐太

題 名 A J-shaped association between serum uric acid levels and poor renal survival in female patients with IgA nephropathy

(女性 IgA 腎症患者における血清尿酸値と腎予後間の J 型の相関関係)

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

近年、高尿酸血症のみならず低尿酸血症も、急性腎障害や慢性腎臓病（CKD）の発症に対するのと同様に、心血管病の危険因子であることが明らかにされている。しかし、CKD の進展に低尿酸血症が与える影響については明らかではない。今回我々は、CKD の最も多い原因のひとつである IgA 腎症の患者を対象に、血清尿酸値と CKD の進展との関係について検討した。1979 年 10 月から 2010 年 12 月の間に腎生検で IgA 腎症と診断された 1218 名の患者を後ろ向きに調査した。対象患者は、血清尿酸値によって 3 群に分けた。低値（L）群、中等値（M）群、高値（H）群とし、男性においては、 <6.1 、 $6.1-7.0$ 、および >7.0 mg/dL、女性においては、 <4.4 、 $4.4-5.3$ 、および >5.3 mg/dL とした。末期腎不全への進展の評価に、Cox の比例ハザードモデルを用いた。観察期間（中央値 5.1 年間）の間に、142 名（11.7%）が末期腎不全に至った。男女ごとの、M 群に対する末期腎不全のハザード比 [95%信頼区間]は、男性では、L 群 1.18 [0.55-2.54]、M 群 1.00 [対照]、H 群 1.80 [1.01-3.10]、女性では、L 群 2.73 [1.10-6.76]、M 群 1.00 [対照]、H 群 2.49 [1.16-5.34] であり、いずれも J カーブ現象を示した。女性においては、高尿酸血症のみならず、低尿酸血症も末期腎不全発症の独立した危険因子であった。この結果より、IgA 腎症患者において血清尿酸値は末期腎不全と J 型の相関関係を有し、特に女性において顕著であることが示唆された。